

(様式 1-3)

浪江町既存ストック活用まちづくり事業計画に基づく事業等個票

令和 2 年 1 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

N0.	1	事業名	浪江町空き家実態調査事業	事業番号	A-1-1
交付団体	浪江町		事業実施主体	浪江町	
総交付対象事業費	14770 (千円)		全体事業費	14770 (千円)	
事業概要					
○事業の概要 浪江町復興計画【第二次】にて「まちづくりの核となるエリア」と位置付けられている中心市街地及びその周辺地区において、空き家の現況把握及び所有者の調査を行うとともに、今後の空き家の対策及び利活用に関する方針の取りまとめを行う。 ○既存ストック活用まちづくり支援事業計画と復興・まちづくり計画との整合性（実施要綱第 4 の 6 の一） ※復興・まちづくり計画の該当箇所を添付してください。 浪江町復興計画【第二次】本編 P. 35 の施策 3「住まいの再建とまちづくりの推進」に記載されている「まちづくりの核となるエリアとして、国道 6 号と浪江町役場を中心とした地域を位置付け、この地域に商店街等の生活利便施設や災害公営住宅を整備していきます。」に整合する。また、浪江町復興計画【第二次】本編 P. 37《目指す姿と取組》及び浪江町復興計画【第二次】施策編 P. 24 の《これからの取組》に同様の記載がある「住まいの整備・確保 空き家・空き地対策の実施」にも整合する。					
当面の事業概要					
＜令和 2 年度＞ ・空き家実態調査事業 浪江町復興計画（第二次）にて「まちづくりの核となるエリア」と位置付けられている中心市街地及びその周辺地区において、空き家の現況把握及び所有者の調査を行うとともに、今後の空き家の対策及び利活用に関する方針の取りまとめを行う。（今回申請）					
空き地・空き家等の既存ストックの状況及び地域の帰還環境整備との関係					
【共通】 ○空き地・空き家等の既存ストックの状況 浪江町復興計画【第二次】にて「まちづくりの核となるエリア」と位置付けられている中心市街地及びその周辺地区においては、避難の長期化に伴い、帰還意向の低下や家屋の荒廃が進み、環境省により解体が行われる建物が多い状況であり、今後のまちづくりにおいては残存する空き家の利活用が重要となる。 ○地域の帰還環境整備との関係 実態調査を行うことで既存ストックの現状や所有者の意向等の把握が可能となり、町で実施している復興に向けた住宅確保及び生活再建に寄与することができる。					
関連する事業の概要					